こおりまち

議会だより

平成31年 冬号 VOL.115

特別委員会設置 …… 3

有害鳥獣（イノシシ）対策調査特別委員会

駅前駐車場の課題どう解決する

（一般質問　７名登壇） …… 5

議会研修報告 …… 16

～醸芳幼稚園の
元気っ子たち
関連記事がP.20に～

12月定例会

平成30年12月定例会は12月４日から10日までの７日間の会期で開催された。

提出案件は条例制定１件、条例改正１件、補正予算4件、報告１件、請願1件、発議１件の計９件を審議しすべて原案通り可決した。

― 「桑折ジャンクション」に名称が決定 ―

条例制定

桑折町地方活力向上地域における固定資産税の課税免除及び不均一課税に関する条例

地域再生法に基づき、企業の新規立地及び町内投資による雇用創出を促進するため、本町への本社機能の移転・拡充等を行う事業者に対し、固定資産税の課税免除または不均一課税を適用する条例を制定する。

※31年度以後の年度分適用

条例改正

職員の給与に関する条例の一部改正

県人事委員会勧告に基づき、若年層の月例給料額を引上改定、勤勉手当を０・０５月引き上げ改正する。

補正予算

井戸掘削共同事業へ補助金交付

一般会計（第3号）

歳入歳出予算総額にそれぞれ５，４７６万６千円を追加し、予算総額を63億１，８８８万７千円とする。

《歳入の主なもの》

・福島再生加速化交付金 ▲６１３万１千円

・福島県農業等災害対策補助金 ２００万円

・前年度繰越金 ４，８９３万２千円

・臨時財政対策債 ７７０万円

《歳出の主なもの》

・農業基盤整備事業費 ３，６３４万１千円

・新庁舎敷地の荒造成工事費 ８５０万円

・高温・少雨時の農作物被害防止のための井戸設置費補助金 ４００万円

・道路橋梁費 ▲１，２２２万４千円

・県人事委員会勧告に基づく職員給与等 ８５７万７千円

討論

反対　齋藤松夫議員

庁舎建設工事８５０万円予算計上の一点を理由に、反対の態度をとる。

この予算計上は、７割もの国の財政支援を受けて建設した国見・川俣庁舎を上回る豪華庁舎建設に着手するためのものである。１つは、「簡素で機能的、且つ総事業費縮減」を求めた議会特別委員会決議及び、町の諸計画並びに平成29・30年度予算編成方針等と相反する。２つは、庁舎建設地は「蚕糸跡地利活用計画と財源対策」に基づき、旧蚕糸跡地とすべきであったもので、本案に賛成できない。

賛成　羽根田八千代議員

この度の補正は、国庫支出金・県支出金等々の有効活用によるものだ。特に、高温少雨による農業等対策補助事業の増額は、基幹産業である農業従事者への痛み対策と今後の就農意欲を高めるために必要不可欠なものだ。

また、他の事業に関しても担当各課先を見据えての提案と理解する。庁舎建設等に関しては、着実な進捗を期待し賛成討論とする。

賛成７、反対２

国民健康保険特別会計（事業勘定）（第3号）

歳入歳出予算の総額にそれぞれ７４２万８千円を減額し、予算の総額を14億２９９万６千円とする。

《歳入の主なもの》

・職員給与等一般会計繰入金 ▲７７５万８千円

《歳出の主なもの》

・人事異動による給与等 ▲７７５万８千円

介護保険特別会計（保険事業勘定）（第3号）

歳入歳出予算の総額にそれぞれ１，２３０万６千円を追加し、予算の総額を15億３，８５９万６千円とする。

《歳入の主なもの》

・国庫補助金 ２２４万８千円

・支払基金交付金 ３２１万１千円

・繰越金 ２６９万円

《歳出の主なもの》

・介護予防・日常生活支援総合事業 ８０１万２千円

水道事業会計（第1号）

・水道事業収益（収入） １，０３１万８千円

総額３億６，８３９万９千円とする。

・水道事業収益（支出） １９４万６千円

総額３億４，０８５万８千円とする。

特別委員会　設置

「有害鳥獣（イノシシ）対策」

委員長　羽根田八千代
副委員長　渡邉　英直

特別委員会とは

議会の議決により付託された、特定の事件の審査・調査の権限を有する委員会です。

本議会に、「有害鳥獣（イノシシ）対策」調査特別委員会を設置し10名の委員をもって構成し、「有害鳥獣（イノシシ）対策」調査のため、次の事項を付託する。

1．調査事件

「有害鳥獣（イノシシ）対策」に関する調査について

2．調査期限

１に揚げる調査が終了するまでとし、閉会中も調査を行うことができる。

― 畑がゴチャゴチャに ―

― 破損した防護柵 ―

これまでの経過

平成26年11月、防止柵設置状況を重点に視察研修を行った結果、地区住民の生活環境を守るためにも平成28年全線15㎞設置に至った。

今年８月には、有害鳥獣対策実施隊との町民会議を開催し、捕獲の現況・捕獲手段（罠・檻・その他）の効果と課題・新たな捕獲方法等多くの意見交換をした。更に半田地区で10月に開催した懇談会では、多面的機能支払い交付金事業の活用による防護柵の設置及び同管理についても、議論され、議会報告会では、住民からの具体的対策を求める声があがった。

議会では、これらの経過を受けて、以下５項目について各議員からのレポートを基に議論を重ね協議した結果、特別委員会を設置するに至った。

(1)防護柵に関して（山側・里側推持管理・補修等）(2)檻・罠に関して（個数・資格の支援等）(3)捕獲に関して（実施隊支援等）(4)情報に関して（町民からの情報・町民への情報等）(5)その他（自己防衛策・有害鳥獣対策事務等の強化）

請願　審査結果

請願・陳情とは

町民の皆さんの意見や要望等、町政に反映させる制度です。

※請願・陳情書の作成・提出方法については議会事務局へお問い合わせ下さい。（電話５８２―２１１３）

ライドシェアの導入に反対し、安全・安心なタクシー事業の適正化・活性化の推進を求める意見書提出に関する請願

〔請願者〕

福島市吉倉字吉田40番地
一般財団法人
福島県タクシー協会会長
高橋　良和

桑折町字本町64番地
（有）三協ハイヤー
代表取締役　松浦　俊充

〔審査委員会〕

総務文教常任委員会

〔審査の結果〕

採択（意見書提出）

※意見書はＰ13へ掲載

専決処分の報告

議会の議決により指定された町長の専決事項に基づき、福島県市町村総合事務組合規約の変更（会計管理者を置く）を専決処分した。

一般質問

ズバリ！町政を問う60分

７名登壇

◇一般質問は、質問者が事前に提出した通告書に基づいて、一人持ち時間60分で行われます。
◇内容は、質問者の責任において作成されたものを掲載しています。
◇質問項目は、通告によるものです。
◇一般質問の様子は桑折町議会のホームページ（録画）でご覧いただけます。

登壇議員	掲載頁	質問項目
斉藤　謙		※体調不良のため欠席
原　賢志	5頁	1．町民研修センター「うぶかの郷」の今後の在り方について 2．駅前広場駐車場について
佐藤武朗	6頁	1．新庁舎建設及びそれに伴う関連事業について 2．人口減少歯止め策対応について 3．将来を見据えての各集落（町内会）の在り方について 4．冬期間の除雪対応について 5．民間企業による風力発電事業計画について
川名静子	7頁	1．町民研修センター「うぶかの郷」に関して 2．学校教育に関して 3．成人の風疹予防対策に関して 4．街道を活かしたまちづくりに関して
半澤　高	8頁	1．将来の桑折町のコンパクトなまちづくりについて 2．全国山城サミットの開催について 3．桑折地区かわまちづくりの今後の進展について 4．学校でのいじめ問題について
羽根田　八千代	9頁	1．防災訓練（10/21、10/28）開催の評価と課題について 2．全国瞬時警報システム（Ｊアラート）について 3．学校給食センターの有事に稼働する蓄電装備について 4．公共交通網等高齢者の足の確保について 5．第二次健康こおり 21（健康長寿延伸策）について 6．蚕糸跡地南側２ha の利活用について
岩﨑久男	10頁	1．役場新庁舎建設事業について 2．原発事故と汚染土壌の搬出について 3．小中学校の通学時の荷物過重問題について 4．有害鳥獣対策について 5．総合計画（施策３～６）居住環境について 6．都市計画法 34 条 11 号について
齋藤松夫	11頁	1．公立藤田病院組合構成市町負担率（国見町５割、桑折町４割、伊達市１割）再検討問題について 2．町が定めた諸計画や方針に照らし、不整合きわ立つ役場庁舎建設計画について 3．想定震度を７として策定した「桑折町業務継続計画」について 4．桑折町災害ハザードマップについて 5．伊達崎地区にまで出没するに至った有害鳥獣（イノシシ）対策について 6．人口減少・高齢化時代における簡易水道事業の今後の在り方について 7．住まいは人権の観点から町公営住宅管理の在り方について

原　賢志 議員

駅前駐車場の課題どう解決する

コインパーキングと月極駐車場

問　駅前広場駐車場は、多くの町民が利用したいときに利用できない等の諸問題が発生し、長年の課題となっている。利便性向上、利用状況の改善、適正な管理運営を図るための検討結果はどのようなものになったか伺う。

答　町長　町外利用者の長時間駐車による常時満車状態解消に向け民間事業者に土地を賃貸し機器設置から管理運営までの業務を担わせる「経営委託方式」等について調査を進めてきた。その結果、駅前駐車場は、町民の利便性確保のため無料時間を設けたコインパーキングに。駅北側臨時駐車場は、長時間利用する通勤・通学者向けの町民優先月極有料駐車場として整備する。今後は土地の賃貸料、無料時間の設定、駐車料金、サービス等の提案を受ける公募型プロポーザル方式により、事業予定者を選定し来年度から運営していく。

― 満車状態は解消されるのか ―

「うぶかの郷」今後のあり方は

委員会報告を基に早急に見直す

問　「うぶかの郷」は、来春に指定管理契約が終了する。運営方法や業務内容など、今後の在り方についてどのように考えているのか伺う。

答　町長　町民の代表や有識者で組織する「うぶかの郷」あり方検討委員会を設置し、施設のあるべき姿や望ましい運営方法を検討していただいた。施設は存続が望ましいとの見解に達したものの、食事提供事業や宿泊事業は、事業内容の検討・見直しが必要である。指定管理料についても現形態でのサービスの有無に関わらず、管理料の増額は避けられないとの意見もいただいている。今後のあり方については、委員会からの報告を基に、指定管理者制度による施設の管理運営を前提として、早急にサービス内容や管理料の見直しを図る。とともに、広く民間を含め公募による受託事業者の決定を進める。

佐藤武朗 議員

現庁舎跡地の利活用を早めに示すべき

次年度早期に検討委員会を立ち上げる

新庁舎建設に伴い将来のまちづくりに向けた方針等は早めに示す必要があり次の点を伺う。

問 完成に向けてのタイムスケジュールは。

答 町長 第1期造成工事を3月迄完了、実施設計も年度内に完成させる。

問 新庁舎周辺のサイン看板等の計画と町全体の看板の点検、整備を図るべきでは。

答 町長 国道4号駅前入口交差点等、役場入口が分かりやすい標識の設置、町全体のサイン看板等の点検整備も検討する。

問 防災情報・PR等が発信できる電光掲示板等の設置は。

答 町長 情報発信には有効な手段だ。検討してみたい。

問 現庁舎の跡地利活用について早めに示すべきでは。

答 町長 有識者等による検討委員会を立ち上げ、町全体のグランドデザインの中で、民間活用を含め若者の移住定住に資する利活用を中心に、計画策定を進める。

— どう活かす現庁舎跡地 —

福島圏域連携推進協議会発足の効果は

地域資源・特徴を活かした相互発展

人口減少の歯止めは、相馬福島道路の開通も目前、早めの施策が必要だが次の点を伺う。

問 近隣との比較で本町の人口減少率をどう評価、対応は。

答 町長 他に比べ抑えられている。各種支援策をさらに磨き、住宅地の供給や空き家バンクの活用等、各種施策を連携させ取り組む。

問 歯止めには、各種支援策等が功を奏している。さらに、民間活力も含めた宅地の確保が不可欠だが。

答 町長 町有地の有効利用や市街地の低・未利用地の民間開発を後押ししていく。

問 「福島圏域連携推進協議会」の効果と取り組みにあたっての体制づくりは。

答 町長 11市町村が、それぞれの資源や特徴を活かし地域的な連携で相互発展を目指す。総合政策課が中心で取り組む。

問 日立オートモティブシステムズの現地雇用は。

答 町長 地元周辺で55名、高卒内定者10名だ。

これも 質 問

問 旧桑折町以外、3地区の町内会の現状をどう認識

答 高齢化の進展による担い手不足が心配

問 冬期間に入る前の町民に対する除雪対応説明は

答 住民への広報回覧と町内会長への現状説明

問 民間企業による風力発電事業計画について

答 環境影響評価制度に基づき必要な措置を講ずる

川名静子 議員

プログラミング教育導入にいくら

パソコン270台リース年2千万円

英語学習が先行で、「道徳」教科化が今年度から、また、プログラミング教育と子ども達の環境がさらに多忙になると懸念する。

問 「道徳」は個々を観察、価値観の押し付けでない評価か、また教師に対する指導は。

答 教育長 評価は数値でなく文章で道徳的な考え方、気持ち、態度の成長を認め、励ます立場を記述する。教員へは資料配付、研修会への参加を促す。

問 プログラミング教育導入設備の試算は。

答 教育長 小中学校の電子黒板、教師、児童生徒用コンピューター270台が必要、5年間のリースで年額2千万円と試算している。

問 プログラミング教育のねらいは。

答 教育長 定められた範囲から、目的達成の為の手順を考えたり、新たに作成実行する主体的・能動的な情報活用能力を育成すること。

問 「早寝、早起き、朝ごはん」の定着は。

答 教育長 8割程度の児童生徒に定着している。

問 スマホ、タブレット端末等のゲーム、ネット依存の影響とその背景にあるものは。

答 教育長 長時間使用での生活リズムの乱れ、学習への悪影響はごく一部に見られる。ルールの確立不足、がまん強さ不足等PTA同志の働きかけも重要となる。

— 未来のビル・ゲイツは現われるか —
※マイクロソフト社創業者

これも 質 問

問 「うぶかの郷」公募前に設備・修繕をする考えは

答 投資をするつもりはない

問 「桑折宿まちなか街道」に国交省提案を活用しては

答 本町・北町をゾーンとしてにぎわい創出を

風疹抗体検査を無料で実施すべき

国の動向を注視し助成を検討

問 今年に入り風疹の感染者が昨年の4倍強と増えている。特に30代～50代の男性に多い。妊娠初期に感染すると難聴や心臓病等の障がいが起きる可能性がある。「防げる病気は確実に防ぐ」対策が必要だ。免疫の有無を調べる抗体検査を対象者に実施すべきと思うが。

答 町長 風疹予防対策は感染リスクの高い20歳～50歳未満の希望者に風疹ワクチン接種の全額助成をしている。国の抗体検査、無料化の方針を注視し助成についても検討する。

半澤　高 議員

かわまちづくりの今後の進展は

街なか等に回遊できるイベント開催

問　桑折地区かわまちづくりではどのようなイベントを実施する予定であるのか。今後、どのように事業を進めていく考えか。

答　町長　「かわまちづくり計画」については、町としてはウォーキングコースの標識整備やトイレの改修を行い、国土交通省では、カヌーの発着場を兼ねた多目的広場やマウンテンバイクコースなど河川内整備を予定しており、多くの人が街なかや「レガーレこおり」、桃源郷、阿武隈川へ回遊できるようなウォーキングイベントやサイクリングイベント等を計画している。

— 改修またれる桃の郷トイレ —

コンパクトなまちづくりをどう進める

にぎわいづくりの拠点エリアを形成

問　国土交通省が平成26年に公表した『国土のグランドデザイン２０５０』では、人口減少・超高齢化が進む中、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者が安心して暮らせるようなコンパクトなまちづくりを進めることが重要であるとしている。中・長期的な視点から将来の桑折町においてもコンパクトなまちづくりが必要と思うがどうか。

答　町長　コンパクトなまちづくりについては、深刻な人口減少・超高齢化社会等の対応策として有効な手立ての一つである。今後とも「桑折町総合計画」や「桑折町都市計画マスタープラン」に基づきながら、新庁舎建設に併せて、定住化促進に向けた都市的土地利用や商業の活性化、二次交通に関する検討などに取り組み、町のにぎわいづくりの拠点となるエリアの形成を進める。

これも 質 問

問　全国山城サミット開催予定は

答　西山城整備事業の進捗状況を見極め決定

問　いじめ防止策は

答　早期発見、早期対応が大切

羽根田八千代議員

広域的避難訓練が必要では

災害相互協定に基づき検討

大規模な災害が発生した場合の応急対策の習熟を図るとともに、連携強化及び自助・共助・公助の連携による地域全体の防災力向上を図ることを目的として開催された防災訓練について伺う。

問　プレイベント出前講座の効果は。また、災害図上訓練（ＤＩＧ）の評価と課題・今後の計画は。

答　町長　出前講座は災害時の心構えが理解され効果があった。ＤＩＧは、非常に有意義であったと感想が寄せられた。今後、他地区でも機会をとらえて取り組んでいくよう促す。

問　一連の訓練の評価と課題、対策は

答　町長　一過性とならぬ様継続していく。防災行政無線の通信訓練も年２回実施。

問　「睦合地区防災計画」完成時期は

答　町長　年度内には完成する。

問　睦合地区は、伊達市との広域的避難訓練が必要ではないか。

答　町長　災害相互協定に基づく連携のひとつとして検討する。

—いざ！　機敏に伝授 —

蚕糸跡地南側２haの利活用は

賑わい創出のため、多面的に検討

問　蚕糸跡地南側は、仮設住宅の役目を終え、残る２haが更地として次なる使命を待つかのように広々とそこにある。

公営住宅、もんも館、心字の池をはじめとする公園整備、日立オートモティブシステムズの社員寮等々利活用が進められている中、当初予定の公園用地としていくのか否か、次なる方針を打ち出す時期ではないか。町長３期目の大きな決断の時と考える。所見を伺う。

答　町長　再来年には周辺に新庁舎も整備されるなど人口集積が進み、新たな町の中心となる可能性があるものと考えている。こうしたことから、若者・子育て世代の移住定住促進や町の賑わい創出のため、多くの町民が望む利活用策について多面的に検討する。足りないものをしっかり補完する。

これも 質 問

問　屋外スピーカー睦合と半田に追加設置が必要では

答　独自に試験放送をする等、実態把握する。

問　学校給食センターに蓄電装備を

答　熱源が確保できても即時の使用は困難だ

問　スマート・ライフ・プロジェクトの推進状況は

答　健診受診アップ・減塩推進運動に力点をおく

岩 﨑 久 男 議員

新庁舎建設事業の進捗は

詳細図面の作成及び積算業務中だ

問 平成30年度の事業である、基本設計および実施設計、造成、外構設計、開発許可等の進捗状況を伺う。

答 町長 実施設計については、現在、詳細図面を作成及び積算業務を行っており、来年3月までに完成。造成・外構設計については、積算業務に着手しており、開発許可は12月中に、建築確認は、来年3月末までに申請を行う。

問 人口減少による財源確保は厳しいものと考える。例えば10年後の自主財源はいか程になるものか算定されていると考えるが町長の所見は。

答 町長 10年後の自主財源については、人口減少の影響を加味し過大に見積もることなく、慎重に算定する必要があるが、今後の財政見通しは、堰向工業団地の売却損失補填の終了、町内企業の増設、震災による固定資産税減免終了、町税増加を見込んでいる。

— 平成32年度完成めざして —

汚染土壌の搬出状況は

町内の除去土壌は32年度完了

問 伊達崎地区から、汚染土壌が中間貯蔵施設へと搬出作業が行なわれているが、環境省からは平成30年度の搬出数量は、1９０００袋であり、現在の進捗状況と年度内での増減があるものか伺う。

答 町長 除去土壌等の搬出については、事業主体である環境省から「中間貯蔵施設工事や施設内道路整備が計画どおり進まなかったことにより、現時点では遅れが出ているが、年度内には全て搬出する」と説明を受けている。搬出数量は約1，３００袋増の2万３００袋である。

問 仮置場からの搬出順位の決定基準があるか。

答 町長 原則として搬入時期が早く、長期間保管となっている仮置場から優先的に搬出している。

問 町内すべての除染土壌の搬出完了予定は32年度か。

答 町長 除去土壌等の搬出について環境省では、32年度までに完了するとしている。

これも 質 問

問 小中学校の通学時荷重については

答 必要に応じ適切な配慮を講じるよう指導

問 有害鳥獣対策室の設置を

答 現体制で鋭意努力する

問 町営住宅居住環境は

答 必要な維持管理に努める

齋 藤 松 夫 議員

時間雨量20ミリへの対処は

日頃からの備えが重要と認識

問 本年8月10日、半田地区において時間雨量77ミリの豪雨に見舞われた。これをどう受けとめているか。中北地区が土砂災害警戒区域とされているが、災害防止策を伺う。また、同区域南方面が警戒区域から外されている。その理由は。佐久間川護岸の崩壊対策は。

答 町長 近年、全国各地で発生している想定を超えた局地的ゲリラ豪雨の事象の一つと考える。予測困難なため日頃からの備えが重要であるとあらためて認識した。災害防止策はハザードマップの作成に加え、土砂災害を想定した避難訓練を取り入れる考えだ。佐久間川流域については、福島県による土砂災害調査が終了していないため、警戒区域指定に至ってない。護岸対策は県へ改善を要望中だ。

— 一日も早く復旧を —

「想定震度7」とした理由は

気象庁が定めた最悪事態を想定

問 福島県業務継続計画における災害想定は、「東日本大震災と同程度の地震」とし、福島市は「震度6強」とした。本宮市は「震度6弱」である。ところが桑折町は「震度7」と設定した。東日本大震災で震度7を記録した市町村は皆無だ。よって桑折町業務継続計画は実効性なき計画となるのではないか。「震度7」とした理由を伺う。また計画にある町長不在時の代行及び、職員参集体制は実行可能か。

答 町長 被害想定は「震度7」が気象庁が定める最大の階級であり、考えられる最悪の事態を想定したものである。町長不在時の代行順位及び、職員参集体制は実行可能なものととらえている。

これも 質 問

問 有害鳥獣対策係の設置は急務だ

答 現体制で対処する

問 坂下住宅簡易水洗導入を

答 入居者負担増を考慮し研究中だ

問 簡易水道の上水道加入への見解は

答 第4次拡張時のままだ

委員会報告

総務文教常任委員会
委員長　原　賢志

当委員会は次の3点について所管事務調査を行ってきた。

・「健全財政について」は、9月定例会で行った中間報告に対する町当局の対応について担当課長の出席を求め説明を受け質疑を行った。

・「移住・定住について」は、日立オートモティブシステムズ㈱関連の移住等について担当課長の出席を求め説明を受け質疑を行った。

・「再生可能エネルギーについて」は、調査報告に向け協議を行ってきたが、役場新庁舎に於いて地中熱の利用について検討されていることから引き続き調査することとした。

尚、「移住・定住について」、「健全財政について」も引き続き調査することとした。

産業厚生常任委員会
委員長　佐藤武朗

10月16日開催の委員会で次の各種事業について所管担当課の説明を受けた。

一、空家等対策計画の現状と対策（まちづくり推進課）については、空き家調査報告と全国版空き家バンクの登録推進、「桑折町づくりネット」との連携による空き家対策相談会実施等の説明。

二、新農業委員会体制の活動状況（産業振興課）については、法の改正により29年7月に委員の改選。改定の要点は、①農地利用の最適化推進の明確化。②選出方式の改定。③最適化推進委員が新設。課題である遊休農地等に関して、農業委員と農地最適化推進委員が連携して取り組んでいる。

他には、ふるさと産品の6次化、ブランド化推進事業の進捗、空き店舗対策の進捗状況（商工観光推進室）についても説明を受け各委員との質疑も行った。

広報広聴常任委員会
委員長　川名静子

閉会中の調査項目に

町民参加の開かれた議会の充実を図るため、モニターを委嘱し、議会改革・活性化に向けた協議に加え、より政策的な意見聴取を行うため、「議会モニター設置」に向け、要綱等の作成に入った。今年度中に募集・委嘱する予定だ。また、議会報告・意見交換会の実施報告や12月定例会内容の「議会だより」をタイムリーに発行している。

議会運営委員会
委員長　齋藤松夫

政策討論会実施要綱などで合意

議会運営委員会は、議会機能強化に向け協議を継続し進めている。この度、「政策討論会実施要綱」及び、議会基本条例第6条改正等で議会内合意形成となった。

「政策討論会実施要綱」の目的は、議員の政策能力向上と、政策提言活動の積極化を目指すためのものだ。そのため「要綱」では、政策討論会開催のための「政策討論会議題提案書」や、「正副議長による討論会座長・副座長の兼任」「討論会での意見の活用」等について定める。

政策討論会で充実した意見交換を行うためには、執行機関による「政策形成過程等についての説明」を受けることが重要だ。桑折町議会基本条例第6条には「政策形成過程等の説明及び審議」についての規定があるが、説明の求めかたと受け方についても議論、執行部と協議する必要性についても合意した。

そのほか「専門的知見の活用及び大学との連携」についても、協議がまとまった。当面は福島大学の地域連携課を窓口として、交流を深めていくこととなるが、12月1日開催の「福島大学研究・地域連携成果報告会」には議員10名が参加、6つのテーマに基づく講演を受講した。

議会運営委員会はさらに調査を進め、3月定例会で調査報告を行う予定です。

役場庁舎建設調査特別委員会
委員長　原　賢志

8月中旬以降、実施設計の作成作業が開始されたことから、12月20日に「第21回特別委員会」を開催し、新庁舎の実施設計の進捗状況について説明を受け、質疑を行った。

「有害鳥獣（イノシシ）対策」調査特別委員会
12／25
委員長　羽根田八千代

今年度の事業の進捗状況について担当課長より説明を受け、すみやかな対策等を求めた。

『説明』

一、侵入防止柵設置の進捗状況

二、緩衝帯の整備の現状

三、侵入防止用グレーチング設置（銀栗町内会）

四、有害鳥獣対策実施隊によるイノシシ捕獲数の報告。

『今後対応すべき事項』

一、地元との協議を含め柵設置エリアの早期提示。

二、柵設置実施体制の明確化（地元・業者・ボランティア等）

三、事務体制のあり方検討

四、有害鳥獣対策協議会のあり方検討

意見書

「ライドシェア」（白タク）を導入せず安全・安心な地域公共交通の推進を求める。

ライドシェアの導入に反対し、安全・安心なタクシー事業の適正化・活性化の推進を求める意見書

少子高齢化社会が急速に進展する中、タクシー事業は、地域公共交通の一つとして、ドア・ツー・ドアの便利な個別輸送機関としての機能に加え、多様化する利用者のニーズに対応し、福祉タクシーの導入や介護タクシーの運行、スマートフォンによる配車サービスの普及促進、ユニバーサルデザインタクシーや観光タクシーの充実など、地域住民や交通弱者のための移動手段として大きな役割を果たしている。また、東日本大震災発生から7年を経過しているが、被災者住民の足として重要な役割を果たしている。

しかしながら、昨今、シェアリングエコノミーの成長を促すという名目の下、インターネットを利用した「ライドシェア」と称するいわゆる「白タク」行為の容認と求める動きが出ている。「ライドシェア」は、その事業主体が、運行管理や車両整備等について責任を負わず、自家用車のドライバーのみが運送責任を負う形態を前提としており、道路運送法、道路交通法、労働基準法等の様々な法令を遵守し、安全運行にコストをかけ、国民に安全安心な輸送サービスを提供するタクシー事業の根幹を揺るがすものである。また、議員立法により平成25年11月に改正されている「特定地域及び準特定地域における一般乗用旅客自動車運送事業の適正化及び活性化に関する特別措置法」（以下「改正タクシー特措法」という。）の意義を大きく損なうものである。

よって、国においては、次の措置を講ずるよう強く要望する。

1、国民の安全・安心に極めて大きな懸念のあるライドシェアを導入しないこと。

2、地域の公共交通の役割を担っているタクシー事業者が、より安全・安心で快適・便利な交通機関として利用客にサービスを提供できるよう、改正タクシー特措法によるタクシー事業の適性化・活性化を推進するための諸施策を講ずること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成30年12月10日

福島県伊達郡桑折町議会

衆議院議長　大森　理森　殿
衆議院議長　伊達　忠一　殿
内閣総理大臣　安倍　晋三　殿
内閣官房長官　菅　義偉　殿
総務大臣　石田　真敏　殿
国土交通大臣　石井　啓一　殿
内閣府特命担当大臣（規制改革担当）　片山さつき　殿

議会からのお知らせ

3月定例会のお知らせ

3月上旬から新年度一年間の予算が審議、決定される議会です。

町民の皆さん、ぜひ議場で傍聴されてみませんか。

各地区公民館でも中継がご覧いただけます。

くわしくは「議会だより号外」でお知らせします。

募集中　町民会議

～議会と意見交換をしませんか～

議会では町内の団体の皆様と同じテーマで自由に情報・意見を交換しあう「町民会議」を実施しています。

暮らしやすい桑折町にするため、議会もいっしょに考えていきます。

申し込みをお待ちしています。

（申し込みは　TEL 582―113議会事務局へ）

議会基本条例に基づく

議会報告

町民の皆様と

意見交換会 開催

平成30年11月30日～12月2日

本議会は、平成23年９月桑折町議会基本条例を制定し、「町民に開かれた議会・町民参加の議会・議会機能強化」の三本を柱に議会改革を進めております。
今年度 ２回目の開催となった議会報告及び町民の皆様との意見交換会は、４地区を全議員が出席しての開催でした。説明にはパワーポイントを活用し分かりやすい説明をしました。夜間にもかかわらず御出席をいただきありがとうございました。
なお、未回答となった件については、後日、議会より回答させて頂きます。

ご意見等の一部抜粋

桑折地区　11／30・桑折公民館

・単年度収支は、実質２年連続の赤字ではないか。健全財政ですか。
・蚕糸跡地南側の土地利用は、復興住宅や公園整備、その後の土地利用はどうなるのか。
・熱電供給事業（バイオマス事業）について報告がなかったが。
・議会改革改活性化委員会はなぜ必要なのか。
・ＩＣＴ教育の設備費の検討を。学校プール跡地の利活用対策は。制服支給を途中転入生にも対応して。醸芳小１５０周年事業に予算化を。
・議員の補欠選も欠員のまま、議員のなり手不足について、忙しすぎるのではないか。議員活動を町民に伝える方法は。
・空き家ビジネスをどのように認識しているか。

睦合地区　11／31・睦合ふれあい会館

・税金を有効に使うため、敬老会を77歳からにしてはどうですか。
・松原牛沢地区に住宅開発を。
・学力テスト点数の公開はなぜできないのか。
・財政問題での議員力の強化を。
・防護柵の設置を坂町に続き1日も早く平沢分もやってほしい。70代、80代の我々ではどうにもならない。耕作放棄地も増えるばかりだ。
・防災無線スピーカは今何基設置か、場所は、増設計画は、また遠方は聞こえない問題はどのように。
・請願・陳情の件は、採択になってもなかなか実現されないが。
・災害ごとに避難の仕方をわかりやすく示す必要があるのでは。

伊達崎地区　12／1・伊達崎公民館

・うぶかの郷の経営状況は。
・かわまちづくりの内容について。
・イノシシ被害対策と柵の維持管理等について。
・庁舎建設について、将来負担比率が上がっていくのでは。検討した結果について。
・高齢化（晩婚化）対策について
・農地荒廃化対策は。
・多面的機能支払い交付金事業の事務と広域化について。
・予算執行、残ってよかったとは、ほぼ達成とは。
・議会で主要事業の進行管理のチェックをすべき。
・地域住民主体で高齢者対策を。
・防火貯水池の泥上げは。

半田地区　12／2・半田コミュニティセンター

・除雪について1台ぐらい増やしてスムーズな除雪をしては。
・町税1人当り８９３円減は、どのように解釈すればよいか。自主財源の町税が減っていくことをどのように評価するのか。
・藤倉ダムに行く町道の通行止めが長く続いているが、ダムまた町道をどのように検討するか。
・福島森林再生事業は何処をやっているのか。私有林も計画に入れてはどうか。
・罠に使う餌を協力して集めるとしたがその後返事がない。
・空き家の防犯対策と利用法は。
・桑折町が通過点にならないよう考えてほしい。
・坂下町営住宅の水洗トイレ問題は全然進まないが。
・中央道開通まで2年の間にどのような検討をするのか。
・萱尻牧場の利用の進捗状況は。

この度頂いた御意見、アンケート等は、今期一般質問等に取り上げました。今後も皆様方との意見交換の機会には、多くの方々の御参加をお願いいたします。

議会研　修報告

政務調査会

— 降りしきる雪の横手市役所 —

議会はこれまで出資法人（町振興公社）報告に対し、報告書から読み取れる範囲からの質問に限られ、運営内容経営状況を質すことができなかった。打開策を模索するなか積極的に取り組み「条例」制定に至った先進地「横手市議会」に辿り着いた。3月の予算審議をさらに充実したものに資するため、秋田県横手市議会を研修地に決定した。視察テーマを横手市議会の「出資法人への関与について」の取り組みについて。～横手市出資法人への関与に関する条例の制定経過、条例の内容・効果等について～とした。議会としてさらに検討が必要だ。

（渡邉英直）横手市議会が「市の出資法人への関与に関する条例」を制定するに至ったのは、出資法人の倒産があり議会としてもチェック機能を果たすことを目的に制定を目指した。充分に内部調査まではできないものの市側にとっても第三セクター等への関与に関する指針が策定され、運営状況の報告もされ効果的であった。

（岩﨑久男）議会として、出資法人の健全経営にむけて、不断の努力が必要不可欠である。二元代表制における議会の役割と住民への説明責任を果たすためにも、出資法人に対する監視機能は強化すべきだ。出資法人の関与に関する条例が設置されたことを評価すべきである。今後本町議会も参考事例として考えるべきである。

（佐藤武朗）横手市議会の「出資法人への関与」に関しての調査結果は、条例制定後の効果として行政関与のあり方について明確化（第三セクターへの関与に関する指針）を策定。市長が評価等を行う場合、学識経験者を有する者から意見を聞ける等、その内容を議会へ報告し、議会は必要がある場合は意見を述べることができる。

（齋藤松夫）出資法人への議会チェックを可能とするための条例制定、その経過についての説明は、リアル且つ、二元代表制を貫徹して、議会の責任を果たすという気概を感じさせた。同時に、出資法人に関する報告を受けた後の「議会の意見」が、どの範囲まで可能かについては、時間の関係上、不十分となった。今後も研究課題として追究していく。

（佐藤榮三）横手市では平成の大合併に伴い旧市町毎に温泉施設等が複数あり、どこも利用者の減少、維持費の増加により施設の統廃合が行われた。その様な中議会が市の出資法人の経営内容の質疑を行う事は法の定めでできない。提出された報告事項以上の内容については、条例を制定してもむずかしいとか。本町の条例制定は一層の研修が必要だ。

（川名静子）公的支援であっても「口が出せない。」「質す権限がない。」ことから、議会はどう関与できるのか、すべきか。そのノウハウを探る視察だ。「条例は町と議会が対立するものでなく、健全経営に向け取り組むためのもの」だ。制定への道のりは厳しいが、手ごたえ、効果は確実だ。経営や評価をプロが関与することで議会がすべき監視機能強化になる。

（原　賢志）出資法人への直接的な関与の難しさを再認識するとともに、首長及び執行部の積極的な情報公開の必要性を改めて感じた。今回の視察先は第3セクターによる株式会社への出資であり、本町の出資法人とは体制的に違う。本町においては積極的に事業・財務内容が公開され議会としてのチェック機能は働いている。

（半澤　高）今回の視察で条例制定によるある程度の有効性を確認。しかしながら、そもそも町振興公社の12月定例会への報告書提出が遅れたという点は、それ以前の問題である。議会軽視と言われても仕方のないものであり、振興公社の常識欠如と言われかねないものがある。まずは振興公社の猛省を促したい。

— 特別委員会設置時の委員長から説明 —

（羽根田八千代）議会が独自性を保持し、公的支援をするか否か判断する資料の提出や報告、第三者による経営評価委員会の設置を求めているが、条例の主語は首長である事であと一歩踏み込めない。関与のあり方の方向性を明らかにする指針は、経営形態の再検証、財政的・人的関与の見直し等を示している。まずは指針策定を促す事が重要と感じた。

（片平秀雄）町が出資している法人への関与に対し議会で条例を制定しても直接関与できない。町から執行している役員、又は会計士や税理士・労務管理士・行政書士等で構成した第三者機関（評価委員会・経営審議委員会等）があれば経営状態を把握し適切な助言指導や改善策など提言できる。財団法人桑折町振興公社の健全経営を促すにも検討が必要だ。

削減による負担増。報酬維持のまま拘束時間の長期化等々議員のなり手不足は深刻である。対策として、兼職禁止や議員の請負禁止等規制緩和策、いかに若者や女性を政治に関心を抱かせるか。大学はその役割を担える可能性がある。

現職の議員が住民を巻き込む改革へステップアップし、次世代へ政治的※リテラシーの涵養が必要だ。

※基本的な知識や技能などを身につけ、その分野の文書を読み書きしたり、対象を適切に活用できる基礎的能力のこと。

町村議会議員研修会　10/23

今年度は郡山ユラックス熱海で開催された。「地方議会のあり方・活性化について」と題し東大大学院教授金井利之氏から、日大教授岩井奉信氏からは「今後の政局・政治展望」について講演された。私達が常にニュース番組等で耳にしている国政を、わかりやすく、鋭い切り口の内容は、聞く者を釘付けた。

伊達地区議会研修セミナー　12/20　国見町観月台文化センター

伊達郡3町（国見町、桑折町、川俣町）の地域課題を解決するため、福島県町村議会議長会の主催で、平成30年12月から平成31年2月まで月1回、全3回のセミナーが行われます。

1. 演　題
「地方議会が抱える課題と可能性」
2. 講　師
福島大学行政政策学類教授
中川　伸二氏
3. 内　容
地方議会を取り巻く現状は二元代表制の認識が高まる一方、議会改革論が叫ばれ議会格差が存在し、曲がり角に立っている。議事事項の増加の反面、定数

福大
中川伸二 教授

福大 中川ゼミ学生との懇談会

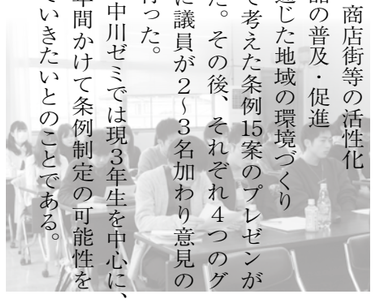
～桑折町で条例をつくりたい！～　12/14

学生側から、3年生14名、4年生10名の参加、議会側からは9名が出席。今回の懇談会のテーマは「桑折町で条例をつくりたい！ ―桑折町の議員と福島大学の学生でつくるまちと議会の活性化をめざした条例づくり―」である。まず中川伸二先生（行政政策学類・教授）から、なぜ条例なのか、なぜ桑折町なのかについてお話頂いた。その後、これまで桑折町について詳しく調査研究してきた学生より

①健康促進・生活改善
②駅前・商店街等の活性化
③特産品の普及・促進
④蛍を通じた地域の環境づくり

に関して考えた条例15案のプレゼンが行われた。その後、それぞれ4つのグループに議員が2～3名加わり意見の交換を行った。

なお、中川ゼミでは現3年生を中心に、今後1年間かけて条例制定の可能性を追求していきたいとのことである。



一部事務組合議会報告　29年度決算概要

◆一部事務組合とは　行政の能率化、効率化を図るため、特定の事務を関係市町村で共同処理する方式です。

【伊達地方衛生処理組合】

選出議員　佐藤榮三・岩﨑久男

一般会計

収入総額5,636万９千円、歳出総額5,592万６千円、歳入歳出差引額は、44万２千円となり全額を翌年度に繰越した。

なお、単年度収支は、10万８千円の減となった。

し尿処理事業特別計画

収入総額３億5,785万円、歳出総額３億5,684万８千円、歳入歳出差引額は、100万２千円となり全額を翌年度に繰越した。

なお、単年度収支は29万円の減となった。

ごみ処理事業特別会計

収入総額41億9,429万５千円、歳出総額41億8,414万８千円、歳入歳出差引総額は、1,014万７千円となり全額を翌年度に繰越した。

単年度収支は150万７千円の増となった。

一般会計　単位：千円

歳入 区分	予算現額	調定度	収入済額	予算対比	歳出 区分	予算現額	支出済額	不用額
分賦金	55,752	55,752	55,752	0	議会費	775	750	24
財産収入	1	0	0	1	総務費	55,394	55,176	218
繰入金	1	0	0	1	予備費	200	0	200
繰越金	551	551	551	0				
諸収入	64	66	66	▲2				
合計	56,369	56,369	56,369	0	合計	56,369	55,926	442

し尿処理事業特別会計　単位：千円

歳入 区分	予算現額	調定度	収入済額	予算対比	歳出 区分	予算現額	支出済額	不用額
分賦金	313,758	313,758	313,758	0	衛生費	180,201	179,608	592
使用料・手数料	17	17	17	0	基金費	38,590	38,589	1
財産収入	12	13	13	▲1	公債費	138,652	138,651	1
繰入金	41,921	41,921	41,921	0	予備費	402	0	402
繰越金	1,292	1,292	1,292	0				
諸収入	845	849	849	▲4				
合計	357,845	357,850	357,850	▲5	合計	357,845	356,848	996

ごみ処理事業特別会計　単位：千円

歳入 区分	予算現額	調定度	収入済額	収入未済額	予算対比	歳出 区分	予算現額	支出済額	不用額
分賦金	313,972	313,972	313,972	0	0	衛生費	471,831	470,600	1,231
使用料・手数料	134,466	135,975	135,975	0	▲1,509	災害復旧費	3,642,295	3,642,277	18
国庫支出金	4,154	4,156	4,156	0	▲2	基金費	17,836	17,835	0
財産収入	52,154	56,525	56,525	0	▲4,371	公債費	53,437	53,436	1
繰入金	23,300	23,300	23,300	0	0	予備費	3,000	0	3,000
繰越金	8,639	8,640	8,640	0	0				
諸収入	281,170	281,440	281,188	251	▲18				
県支出金	3,370,544	3,370,539	3,370,539	0	4				
合計	4,188,399	4,194,547	4,194,295	251	▲5,896	合計	4,188,399	4,184,148	4,250

【公立藤田総合病院】

選出議員　羽根田八千代・原　賢志・齋藤松夫・佐藤武朗

平成29年度の患者延数は、入院が86,077人（前年比376人減）、外来149,183人（3,737人減）と深刻な少子高齢化、地域の人口減少等で前年を下回っている。

診療単価については、入院が39,074円（前年比812円増）、外来が11,771円（前年比223円増）ではあるが、依然として厳しい状況である。治験収入の増加や退職手当積立金の運用益など、医業外収益が増えたことなどで、4,854千円の黒字計上となった。

収益的収支は、収入60億6,487万１千円、支出60億6,001万７千円となり、収支差引485万４千円となった。

資本的収支は、収入１億4,278万４千円、支出５億123万９千円となり収支差引▲３億5,845万５千円は、過年度分損益勘定留保資金で補填した。

収益的収入及び支出　単位：千円

収入 区分	当初予算	補正予算	合計	決算額	予算対比	支出 区分	当初予算	補正予算	合計	決算額	不用額
医業収益	5,697,639	▲165,063	5,532,576	5,488,592	▲43,983	医業費用	6,018,677	▲46,240	5,972,437	5,967,955	4,482
医業外収益	438,365	130,964	569,329	594,693	25,364	医業外費用	112,524	0	112,524	112,362	162
特別利益	0	0	0	3,736	3,736	病院組合費	2,768	0	2,768	1,176	1,591
合計	6,136,004	▲34,099	6,101,905	6,087,022	▲14,882	特別損失	0	0	0	0	0
						予備費	2,035	▲2,035	0	0	0
						合計	6,136,004	▲48,275	6,087,729	6,081,493	6,235

資本的収入及び支出　単位：千円

収入 区分	当初予算	補正予算	合計	決算額	予算対比	支出 区分	当初予算	補正予算	合計	決算額	不用額
出資金	164,192	▲21,408	142,784	142,784	0	建設改良費	180,000	▲3,944	176,056	176,056	0
国（県）補助金	1	▲1	0	0	0	企業債償還金	325,183	0	325,183	325,183	0
合計	164,193	▲21,409	142,784	142,784	0	合計	505,183	▲3,944	501,239	501,239	0

資本的収入額が資本的支出額に不足する額 358,455 千円は、過年度分損益勘定留保資金で補填した。

【伊達地方消防組合】

選出議員　川名静子・渡邉英直

平成29年度一般会計の歳入総額は、16億3,408万２千円に対し歳出総額は、16億446万６千円で差引額、2,961万５千円となった。

老朽化が進む各分署庁舎の改築について、管理者会等で消防施設整備計画10ヶ年計画の承認を受け、基本構想に向けた準備を進めている。また、訓練塔の補修は年度内に工事が完了予定となる。消防施設整備計画は長期的な視点で更新・長寿命化等の対策を計画、構成市町には真摯に説明し理解が得られるよう努めることが重要だ。

単位：千円

歳入 区分	予算現額	調定額	収入済額	予算対比	歳出 区分	予算現額	支出済額	不用額
分担金・負担金	1,545,300	1,545,300	1,545,300	0	議会費	1,226	1,026	200
使用料・手数料	1,055	1,333	1,333	▲278	総務費	84,065	78,978	5,087
国庫支出金	3,589	3,589	3,589	0	消防費	1,335,392	1,315,910	19,481
財産収入	41	40	40	0	公債費	208,714	208,552	162
寄附金	1	20	20	▲19	予備費	3,203	0	3,203
繰入金	0	0	0	0				
繰越金	30,353	30,353	30,353	0				
諸収入	23,511	24,695	24,695	▲1,184				
組合債	26,500	26,500	26,500	0				
県支出金	2,250	2,250	2,250	6				
合計	1,632,600	1,634,081	1,634,081	▲1,481	合計	1,632,600	1,604,466	28,133

議会活動状況報告 平成30年9月15日～平成30年12月10日

年	月	日	活動状況	内容	出席者
30	9	19	広報広聴常任委員会	議会だより秋号の編集	選出委員
		25	例月出納検査	定例検査	選出委員
			広報広聴常任委員会	議会だより秋号の編集	選出委員
		26	議会全員協議会	平成30年第３回（９月）定例会総括について　外	全議員
		28	広報広聴常任委員会	議会だより秋号の編集	選出委員
	10	1	広報広聴常任委員会	議会だより秋号の編集	選出委員
		3	議会運営委員会	平成30年第３回（９月）定例会総括について　外	選出委員
		9	広報広聴常任委員会	議会だより秋号の編集	選出委員
		15	議会全員協議会	桑折町業務継続計画（BCP）について　外	全議員
			議会運営委員会	「議会機能強化」の推進について	選出委員
		16	産業厚生常任委員会	所管事務調査「空き家・空き地について」「産業振興策について」	選出委員
		23	町村議会議員研修会	講演　「地方議会のあり方・活性化について」 講師　東京大学大学院　法学政治学研究科　教授　金井　利之　氏 講演　「今後の政局・政治展望」 講師　日本大学法学部　教授　岩井　奉信　氏	議長外
		25	伊達地方消防組合議会全員協議会	平成30年第２回定例会提出議案について	選出議員
			平成30年第２回伊達地方消防組合議会定例会	平成29年度伊達地方消防組合一般会計歳入歳出決算の認定について　外	選出議員
			伊達地方衛生処理組合議会全員協議会	平成30年第3回定例会提出議案について	選出議員
			平成30年第３回伊達地方衛生処理組合議会定例会	平成29年度伊達地方衛生処理組合一般会計歳入歳出決算認定について　外	選出議員
		26	例月出納検査	定例検査	選出委員
			公立藤田病院組合議会全員協議会	平成30年第３回定例会提出議案について	選出議員
			平成30年第３回公立藤田病院組合議会定例会	平成29年度公立藤田病院組合病院事業会計決算認定について	選出議員
		30	総務文教常任委員会	所管事務調査「健全財政について」「移住・定住について」「再生可能エネルギーについて」	選出委員
			議会報告会・意見交換会（桑折）	９月定例会報告等・町民との意見交換	議長外
		31	議会報告会・意見交換会（睦合）	９月定例会報告等・町民との意見交換	議長外
	11	1	福島県町村議会議長会理事・監事合同会議	平成29年度一般会計決算の承認について外	議長
			議会報告会・意見交換会（伊達崎）	９月定例会報告等・町民との意見交換	議長外
		2	議会報告会・意見交換会（半田）	９月定例会報告等・町民との意見交換	議長外
		9	議会運営委員会	「議会機能強化」の推進について	選出委員
		13	議会全員協議会	議会報告会総括について　外	全議員
			総務文教常任委員会	所管事務調査「健全財政について」「再生可能エネルギーについて」	選出委員
		14	広報広聴常任委員会	議会報告会の総括について、議会モニター制度の設置について	選出委員
		16	議会全員協議会	イノシシ対策の現状と今後について	全議員
		20	伊達郡町議会議員大会決議事項等に係る要望活動	福島県・福島復興再生総局に対する要望活動	議長
		21	第62回町村議会議長全国大会	全国の町村議会議長による国への要望、決議事項の決定、特別講演等	議長
		26	例月出納検査	定例検査	選出委員
			議会運営委員会	12月定例会議事日程等について　外	選出委員
		27	議会全員協議会	イノシシ対策について　外	全議員
	12	4	議会全員協議会	12月定例会（第１日）議事日程等、提案内容の説明	全議員
			第４回定例会本会議	一般会計補正予算、特別会計補正予算2件、水道事業会計補正予算の説明	全議員
			産業厚生常任委員会	閉会中の所管事務調査申出事項について	選出委員
		5	議会全員協議会	12月定例会（第２日）議事日程等について	全議員
			第４回定例会本会議	一般質問４名	全議員
		6	議会全員協議会	12月定例会（第３日）議事日程等について	全議員
			第４回定例会本会議	一般質問３名、特別委員会設置１件	全議員
			第１回有害鳥獣（イノシシ）対策調査特別委員会	正副委員長の互選について	選出委員
			総務文教常任委員会	請願審査	選出委員
		10	議会全員協議会	12月定例会（第７日）議事日程等、追加議事日程、追加議案内容について	全議員
			第４回定例会本会議	・専決処分の報告１件、条例制定１件、条例改正１件審議採決 ・一般会計補正予算、特別会計補正予算２件、水道事業会計補正予算審議採決 ・追加議案審議採決（請願審査１件、意見書提出１件）	全議員
			議会運営委員会	追加議案及び追加議事日程等について	選出委員
			広報広聴常任委員会	議会だより冬号の編集	選出委員

【福島地方水道用水供給企業団】　　**選出議員　片平秀雄**

収益的収支は、水道用水供給事業収益43億9,835万３千円に対し、水道用水供給事業費用44億8,681万９千円で、収支差引額8,846万６千円が当年度純損失となり、前年度繰越欠損金11億542万８千円と合わせた11億9,389万４千円を、未処理欠損金として翌年度に繰越した。

資本的収支は、資本的収入６億2,076万８千円に対し、資本的支出が32億6,579万２千円となり、不足する額26億4,502万４千円は、過年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額4,036万５千円及び過年度分損益勘定留保資金26億465万９千円で補てんした。

収益的収入及び支出　　単位：千円

収入 区分	当初予算	補正予算	合計	決算額	予算対比
営業収益	3,474,887	0	3,474,887	3,506,956	32,069
営業外収益	1,051,345	96,734	1,148,079	1,151,176	3,097
合計	4,526,232	96,734	4,622,966	4,658,132	35,166

支出 区分	当初予算	補正予算	合計	決算額	不用額
営業費用	4,208,572	69,333	4,277,905	4,144,903	133,002
営業外費用	529,602	10,464	540,066	540,065	0
予備費	100	0	100	0	100
特別損失	0	1,298	1,298	1,298	0
合計	4,738,274	81,095	4,819,369	4,686,266	133,102

資本的収入及び支出　　単位：千円

収入 区分	当初予算	補正予算	財源充当額	合計	決算額	予算対比
負担金	0	36,321	584,447	620,768	620,768	0
合計	0	36,321	584,447	620,768	620,768	0

支出 区分	当初予算	補正予算	繰越額	合計	決算額	不用額
建設改良費	721,360	0	713,889	1,435,249	1,430,555	4,694
企業債償還金	1,835,238	0	0	1,835,238	1,835,237	0
予備費	100	0	0	100	0	100
合計	2,556,698	0	713,889	3,270,587	3,265,792	4,794

資本的収入額が資本的支出額に不足する額 2,645,025 千円は、過年度消費税及び地方消費税資本的収支調整額 40,366 千円、及び損益勘定留保資金 2,604,659 千円で補填した。千円未満四捨五入。

Cover Photo ～表紙写真～

子供の元気を肌で感じた一瞬でした。これからも元気っ子でいてネ。

29年度桑折町の一部事務組合への負担金決算額及び28年度決算額対比表

単位：千円　　％：小数点第２位四捨五入

区分	内訳	平成29年度決算額	平成28年度決算額	増減額	増減率（%）
伊達地方衛生処理組合	一般会計	6,481	6,526	▲45	0.7
	し尿処理	28,039	26,692	1,347	4.8
	ごみ処理	33,100	31,567	1,533	4.6
	合計	67,620	64,785	2,835	4.2
公立藤田病院組合	一般会計	52,000	52,000	0	0
	特別交付税	20,707	17,300	3,407	16.5
	合計	72,707	69,300	3,407	4.7
伊達地方消防組合	一般会計	196,030	175,903	20,127	10.3
合計		336,357	309,988	26,369	7.8

議案審議結果表

○賛否の分かれた議案

第４回定例会

議案名＼議員名	渡邉英直	岩﨑久男	佐藤武朗	斉藤　謙	齋藤松夫	佐藤榮三	川名靜子	原　賢志	半澤　高	羽根田八千代	片平秀雄	可否
議　案　平成30年度桑折町一般会計補正予算（第３号）第57号	○	●	○	欠席	●	○	○	○	○	○	―	可決

○：賛成　●：反対　□：討論者

○全会一致で可決の議案

第４回定例会

議案名		討論者
発議第４号	有害鳥獣（イノシシ）対策調査特別委員会設置について	
議案第55号	桑折町地方活力向上地域における固定資産税の課税免除及び不均一課税に関する条例	
議案第56号	桑折町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例	
議案第57号	平成30年度桑折町一般会計補正予算（第３号）	齋藤松夫、羽根田八千代
議案第58号	平成30年度桑折町国民健康保険特別会計（事業勘定）補正予算（第３号）	
議案第59号	平成30年度桑折町介護保険特別会計（保険事業勘定）補正予算（第３号）	
議案第60号	平成30年度桑折町水道事業会計補正予算（第１号）	
報告第６号	専決処分の報告について（福島県市町村総合事務組合規約の変更の専決処分について）	
発委第10号	ライドシェアの導入に反対し、安全・安心なタクシー事業の適正化・活性化の推進を求める意見書（案）	

※「報告」は採決なし

町民の声

議会広報広聴常任委員会では発行後、各地区数名の方々にアンケート調査にご協力を頂いております。皆様からの率直な生の声として、「町民の声」のページに掲載しております。〝わかりやすい、伝わる紙面づくり〟編集の参考にさせて頂きます。

◎「議会だより」アンケートから

○毎回読む　6名
○目にした時読む　5名
○今回初めて読んだ　1名

「議会だよりを読んで気づいた点・要望など」

・字が小さく拡大鏡をかけないと読めない。（70代男性）
・難しいところがある。例えば特別会計等わからない。（70代男性）
・町民には「議会だより」は貴重な情報です。（70代男性）
・読もうとする気がなく関心もうすれた。読み関心を持たなければと気づいた。（60代女性）
・「議会だより」を読んで町政が大体わかります。各議員の考えも読み取れる。（70代女性）
・今後も長く継続すべきである。（70代男性）
・職場が町外のため無関心だった。読みなれないのであまり理解できなかった。（30代女性）
・字数が多く時間の充分ある時に読む。動いている桑折町が感じられる。町の発展に期待する。（60代女性）

◎議会傍聴から

○3回以上傍聴したことがある　4名

・町答弁に少し疑問が残る。
・町長と議員の言葉がイヤな味だ。口ゲンカみたい。

議会傍聴の受付が変わりました。

個人情報保護に配慮し、傍聴人受付簿へ記入後、用紙を箱で保管します。

編集後記

『平成最後の○○○○』という言葉をよく耳にするようになった。平成の時代（まだ終わっていないが）を回顧し、有終の美をという意図もあるだろうが、私の好きな「高度経済成長期の昭和」がどんどん遠くなってしまうような気がして寂しい。兎にも角にも年号が変わり次代の幕開けとなる。消費税の税率アップなど景気の先行きに多少なりとも不安を残すものもあるが、その先には2020東京五輪・パラリンピックなど経済効果期待大のイベントも待ち受けている。新しい時代を迎えようとしているなか、今後の桑折町をどう創っていくか議会においても十分な議論が必要となるだろう。

半澤　高

■広報広聴常任委員会
委員長　川名静子　　委員　半澤　高
副委員長　渡邉英直　　委員　羽根田八千代

まちの歳時記 ～温故知新～

議会だより
平成30年12月26日発行
発行　福島県伊達郡桑折町議会
責任者　片平秀雄
編集　議会広報広聴常任委員会
電話　（024）582－2113
印刷　六陽印刷株式会社
http://www.town.koori.fukushima.jp